

わが町（この）歴史あり

知られるまこと大阪

大阪市大正区

三軒家

大阪市大正区 167

わが町にも歴史あり

知られざる大阪

今回から舞台を大阪市大正区に移します。大阪市西部に位置する大正区は、地

軒家濱一町」と刻まれた石碑が建つ。

「三軒家の地名のいわれについて、中村勘助については、からいきまよか」と、西俣さんが前置きして話し始めた。「江戸時代の初めに、土木工事にたけた中村勘助が、芦が茂っていたこの土地を開発したんです」。手渡された江戸時代の地図には「勘助島」と記されています。人口が増えたら新田がいる、というわけ

で、どんどん新田が開発されていくわけ」

ついでながら、西俣さんが軒数の付いた地名を「か

四軒町（大阪市中央区の高麗橋の西に、明治時代の

五軒家（富田林市に現存。初めてあった）

六軒家川（此花区を流れ

くの旧伊勢街道沿いに、2軒の茶屋があったから）

七軒家（東大阪市に現存。田んぼに7軒、家があったから）

八軒家（天満橋の船着き場。かつて三十石船が発着し、船宿が8軒あったから）

九軒町（西区新町の新町遊郭にあった）

十二軒町（中央区に現存）

五十軒筋（空堀にあった通称）

数え歌ができるそうだ。「昔の人は、こういう風景から土地を築いてきたわけです」と西俣さん。

駅を出て、大阪案内人の西俣さんと北へ歩く。土曜の昼下がり、さして大きな大正橋公園では、藤棚の下で若い女性3人がトランプに興じていた。一角に「皇紀二千六百年」〔三〕

大正区の原風景



大正橋公園の石碑に刻まれた三軒家の名

芦原開発 まず家3軒

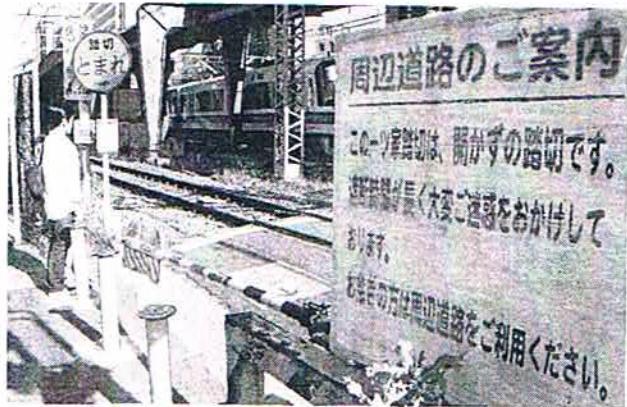
数え歌ができるそうだ。「昔の人は、こういう風景から土地を築いてきたわけです」と西俣さん。

通称)

十二軒町（中央区に現存）

五十軒筋（空堀にあった

こちらは1軒？一ツ家踏切



環状線で唯一
「開かず」の看板

「開かずの踏切」を自称
する、大阪環状線たた
つの踏切「一ツ家踏切」

「開かずの踏切」を自称
する、大阪環状線たた
つの踏切「一ツ家踏切」
があったので、高架にして
工場をのぞかれると重機に
かかる、というわけで高
架化されなかった。この区
間には踏切もないでの、戦
後も高架にする必要がな
った。

新今宮駅から国道43号を
天王寺駅まで歩いたが、線
路がビルの陰になるためか
見つからず、折り返して線
路の北側を歩いた。こちら
はすぐ脇が線路だ。と、「カ
ンカンカン」と踏切の

いきなり寄り道でなんだが、
一ツ家踏切（天王寺区茶臼山町）を探しに行つてみた。大阪環状線はほとんど高架だが、

新今宮—天王寺間と森ノ宮—京橋間だけは地べ

たを走っている。天王寺駅は上町台地の南端に位置し

て、堀割を設けて線路を敷

たを走っている。天王寺駅

は上町台地の南端に位置し

て、堀割を設けて線路を敷

たを走っている。天王寺駅

は上町台地の南端に位置し

て、堀割を設けて線路を敷

たを走っている。天王寺駅

は上町台地の南端に位置し

て、堀割を設けて線路を敷

たを走っている。天王寺駅

は上町台地の南端に位置し

て、堀割を設けて線路を敷

たを走っている。天王寺駅は上町台地の南端に位置して、堀割を設けて線路を敷いている特殊な構造だから。森ノ宮—京橋間は、線路の脇の大坂城公園の辺りに、明治の初めから陸軍の兵器工場「大阪砲兵工廠」があったので、高架にして工場をのぞかれると重機にかかる、というわけで高架化されなかった。この区間には踏切もないでの、戦後も高架にする必要がなかった。

さて、「一ツ家の名は地名にもない。新今宮—天王寺間が開通したのは1889(明治22)年。西俣さんは「そのころ、この辺りは野っぱらで、家が1軒しか建ってなかつたから『一ツ家』と呼ばれてたんでしょう」と推測する。

ちなみに全長21・7キロの環状線を約40分かけて一周して確かめたが、一ツ家が環状線唯一の踏切だった。

【松井宏員】

中村勘助

大阪市大正区

168

わが町にも歴史あり

知られざる大阪

さて、中村勘助だ。神奈川・足柄山の生まれで、新田義貞の血を引くと伝わる。大坂に来て木津村に住んだので、木津勘助とも呼ばれた。木津村は、現在の浪速区にあたり、木津市場にその名をとどめている。

八坂神社（三軒家東2）に顕彰碑が残る。この神社は、勘助が京都・八坂神社の分霊社として建立した。鳥居をくぐってすぐ脇に建つ「中村勘助之碑」は、1979年に建立されたもので、比較的新しい。

資料によると、もっと古い碑があるはずだが、見付

からない。神社を出て西側の道路に回ると、見付かった。本殿や社務所の裏手、巨大な石碑が建っている。

「中村勘助源義久彰徳碑」。源義久は勘助の本名らしい。1919（大正8）年に建てられたもので、戦災に遭ったので傷んでおり、裏面の碑文ははく落して判読しづらい。元は、鳥居の脇にあったが、新しい碑に場所を譲ったのだそうだ。

この碑文や、例によって豊田を開いた。この功績で、「大阪人物辞典」を基に、勘助の生涯を振り返ってみよう。土木工事にたけていた勘助は、豊臣家の依頼を受け、1610（慶長15）年に場所を譲ったのだそうだ。姫島と呼ばれていた木津川河口の中州に軍船係船所を設けた。この際、まず堤防を築いたので、洪水の恐れがなくなり、堤防内外で、勘助は多数の死体の処理や、戦乱で荒れた市中の清掃に努めたという。

米蔵破りの義挙で名上げ



①八坂神社にある中村勘助の彰徳碑
②幕府の米蔵「難波御蔵」跡の碑は、なんばパークス前の雑踏の陰に建つ。中村勘助が破ったとされるが、年代が合わない。大阪市浪速区



この時、既に秀吉は世を去っており、間もなく徳川と豊臣の覇権をかけた大坂の陣（1614年）、夏冬の陣（1615年）がぼつぼつと開かれた。勘助は、豊臣家の依頼を受けて、1610（慶長15）年に場所を譲ったのだそうだ。

この時、既に秀吉は世を

自らが新田開発した地へ島流し 幕府のやらせ 真偽は??

勘助の才は、政権が豊臣から徳川に変わっても重用され、徳川家康をまつた川崎東照宮建立の指揮を執ったり、木津川をしゅんせつして船が出入りしやすくした。やはり、いつの世も才能がある人は強い。しかし、なんといっても「義人」として勘助の名を高からしめたのは、1641年、冷害による飢饉に苦しむ民を救うため、農民を引き連れて幕府の米蔵を破った、という義挙による。

大阪案内人の西侯穂さんは語る。「勘助は幕府に、米を出してくれと頼むんやけど、手続きやとか前例やとか、幕府はなかなか動かんわけや。そこで、役人は勘助に幕府の米を盗ませた。やらせやけど、重大な罪やから、勘助は捕えられて島流しにするんやけど、それが勘助島。自分が開いた土地や。粹な計らいで、悠々と死ぬまで過ごしたりす」と、いうこう説もありま

これについては諸説あり、真偽のほどは定かでない。だいたい、勘助自体が架空の人物という説まであるほどだ。島の名になっていたら、神社の勧請に名前が出て来るのだから、架空ということはあるまいが……。

米蔵破りだが、これはあり得ない。難波に難波御蔵という幕府の米蔵が造られたのは1733年で、飢饉の年にはまだできていな

【松井宏員】

続・中村勘助

大阪市大正区、浪速区 169

わが町にも歴史あり

知られざる大阪



芝居 講談 映画や演歌

後世も人気衰えず

恐らく後年になって、よりセンセーショナルに「幕府の蔵を破った」と脚色されたのだろう。一泡吹きな相手はない。

勘助人気は高く、死後61年たった1721年、勘助を主人公とした芝居「三軒家昔夜木津勘助話」が道頓堀の角座で上演されて大当たり。上方落語や講談の木津の勘助は、豪商・淀屋の娘と結婚し、世のため人のために戻すという筋立

てだが、これは完全なフィクション。天神祭の船渡御の船に飾るお迎え人形に、脚半姿で右手に設計図を持って、力強く空をうんぐりして、さんばら髪で片手に刀を持ち、米俵を抱えた勘助人形がある。

時代は変わっても勘助人気は衰えず、1913年に人気役者・尾上松之助が主演して無声映画が上映されたり、最近では2004年に演歌歌手、三門忠司さんが「浪花侠客伝～木津の勘助」を出している。もず昌平さん作詞で、「お蔵破りは磔獄門に決まってる。けど黙って見過ぎるわけには行かんがな」というセリフ入りだ。

神社の方に尋ねると、この辺には勘助町という地名があつたという。近くの唯専寺（敷津西2）に墓がある。高さ30センチほどの黒ずんだ円筒形で、鍋ふたが載つたような変わった形をしている。隣には「中村勘助実碑」の碑が建つ。

諸説ある義人、中村勘助の「米蔵破り」と「斬罪」。『大阪人物辞典』で、三善貞司さんは「中之島の福岡藩蔵屋敷に納める御用米を搬送途中に襲つたのだろう」と推測する。自首した勘助を処刑すると、「義侠の人」と圧倒的に勘助

を支持した民衆が動搖するのを恐れ、幕府は市中から追放し、三軒家の開発に従

大国主神社に建つ勘助の銅像

いて、勘助が木津村に寄進した土地は村有財産として引き継がれ、これを売った資金で、明治期に大阪、敷津小学校が建設されたとい

今なお生き続ける

町の名に
小学校に
神社の踊りに

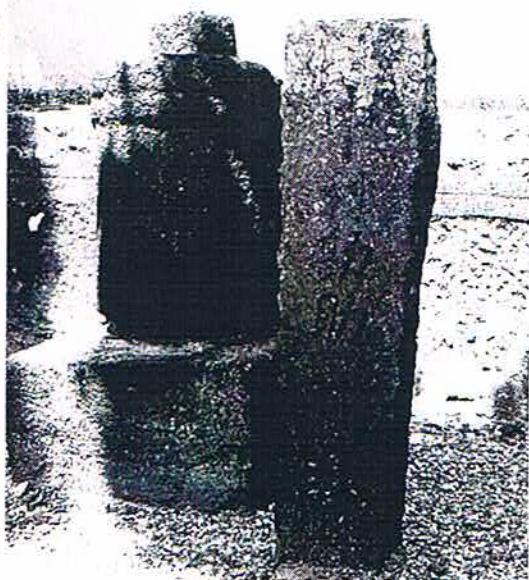
再び大正区の八坂神社に戻る。勘助が開いた神社の境内には、勘助の手植えと伝わる神木のイチョウがある。安達利夫宮司(62)によると、空襲で焼けて立ち枯れているが、「孫くらいのイチョウが生えている」という。

また、神社の資料の中から「勘助童頭」の譜面が出てきた。大阪生まれの作曲家、服部良一の作曲。振りもあって、「勘助踊り」と呼ばれていたという。安達

宮司は「お参りに来るおばあさんに聞いたら、『ついこの間まで踊ってた気がする』と言っていた」。

「ついこの間」がいつごろか定かでないが、安達宮司は「大正歴史を語る会」を主宰する近所の松田邦雄さん(74)とともに、勘助踊りを復活させようと考えている。地区の子どもたちに、神社の夏祭りで踊ってもらおうというのだ。中村勘助は大阪に脈々と生き続けている。

唯専寺にある勘助の墓は、けっつな形をしている



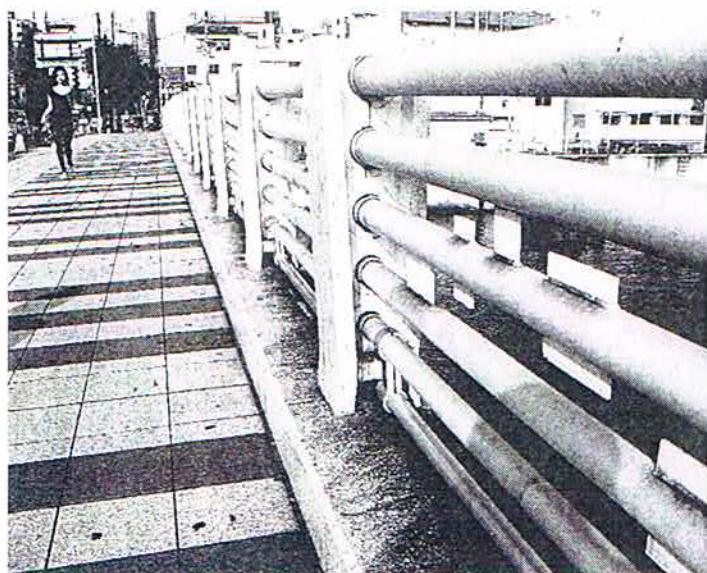
大正橋

大阪市大正区 170

「歓喜の歌」奏でる橋

大正区と浪速区を行ったり来たりしたが、いま一度JR大正駅付近まで戻る。大阪案内人の西俣稔さんと、木津川に架かる大正橋足元を指して「ピアノの鍵盤になっている」と言う。なるほど、歩道に黒い線が2本、3本と交互に入っている、鍵盤をデザインしている。車道側にはメトロノームまで並んでいる。

西俣さんが今度は高欄を指す。「樂譜になつてんねん」。欄干のパイプを五線譜に見立て、音符を表わす出っ張り



● 大正橋を渡る。高欄の出っ張りが「第九」の音符。歩道は鍵盤模様になっている

● 初代の大正橋=1933年当時

知られざる大阪

わが町にも歴史あり

りを付けている。これは凝つてゐる。「何の曲かわかる?」。歌謡曲やねん。昭和49(1974)年に架け替えられ

るうはずがない。「バートたんやけど、設計者が完成一ベンの『第九』の『歓喜の喜びを表わしたんです』と西俣さんが解説。「まちづけにとられてるわ」。そ

らそぞうでしょ。『大正区まち案内人協会』が編んだ「大正区今昔話」によると、設計したのは大阪市土木局の日種俊哉氏。従来のデザインを打ち破り、「音楽」をテーマにしようと考えた。音符は、なぜか下流側の高欄にしかない。実は、日種氏は上流側にも別の曲の音符を付けようと考えていたが、取りかかるとした時に異動になってしまったのだ。

歩道に鍵盤 高欄には音符

わが町にも歴史あり

りを付けている。これは凝つてゐる。「何の曲かわかる?」。歌謡曲やねん。昭和49(1974)年に架け替えられ

るうはずがない。「バートたんやけど、設計者が完成一ベンの『第九』の『歓喜の喜びを表わしたんです』と西俣さんが解説。「まちづけにとられてるわ」。そ

らそぞうでしょ。『大正区まち案内人協会』が編んだ「大正区今昔話」によると、設計したのは大阪市土木局の日種俊哉氏。従来のデザインを打ち破り、「音楽」をテーマにしようと考えた。音符は、なぜか下流側の高欄にしかない。実は、日種氏は上流側にも別の曲の音符を付けようと考えていたが、取りかかるとした時に異動になってしまったのだ。

初代の架橋 大企業が横やり 住民の力で悲願実る

同書には、1915（大正4）年に架けられた初代大正橋の話も載っている。橋脚がないモダンな鉄骨のアーチ橋は、住民の悲願だった。川にはさまれたこの地は、橋がないため「陸の孤島」で、長らく不便をかかっていた。工場が林立し、工員が住み、商店ができて人口が急増すると、架橋はますます切実な願いとなつた。

これをいれて、大阪市は橋を架けて市電を通す計画を立てた。ところが、川沿いで創業していた大阪瓦斯が府知事に働きかけて、この計画に横やりを入れた。ガスの原料を機帆船で運搬していたので、橋ができると航行に支障が出るからだつた。曲折を経て、住民側はむしろ旗を掲げてデモ行進。参加者は警察にしょっぴかれたが、結局、住民パワーに大企業と役所も屈し、橋が架けられた。

同書には、1915（大正4）年に架けられた初代

橋ひとつにも、先人の労苦がしみこんでいるわけだ。さらに、こぼれ話があ

る。設計者が橋が完成した翌年、愛人の姫と道後温泉で心中。「大正橋心中」

という歌がはやったといふ。設計者には妻がいたが、病気を患い別居していた。

この地は砂州なので地盤が硬くなく、大正橋はよく揺

れ、「設計ミス」との批判も起きた。それやこれや

が、大学を卒業したばかりの若い設計者を追い詰めた

大正時代にできたから大正橋。西俣さんが大正区の由来を語る。「もともとは西成郡三軒家村で、明治30年に大阪市に編入されて西

区になる。大正14年には港区になって、昭和7年に独立する時、いろんな案が出ます。一つは泉尾区。これ

は読みにくい。もう一つは新港区。これでは港区の属国みたいや。大正橋のおかげで町が栄えたという感謝の気持ちを込めて、大正区になつたんです」

橋ひとつにも、先人の労苦がしみこんでいるわけだ。さらに、こぼれ話がある。設計者が橋が完成した翌年、愛人の姫と道後温泉で心中。「大正橋心中」という歌がはやったといふ。設計者には妻がいたが、病気を患い別居していた。この地は砂州なので地盤が硬くなく、大正橋はよく揺れ、「設計ミス」との批判も起きた。それやこれやが、大学を卒業したばかりの若い設計者を追い詰めた

大正時代にできたから大正橋。西俣さんが大正区の由来を語る。「もともとは西成郡三軒家村で、明治30年に大阪市に編入されて西

【松井宏員】

続・大正橋

大阪市大正区(11)

オアシス大橋と“兄弟”

1974年にできた大正橋を設計した故日種後哉氏は、なぜベートーベンの「第九」の音符のデザインを施したのか。妻貞子さんが兵庫県三木市にご健在で、話を聞くことができた。

「その前の大正橋がよく揺れて、設計者が心中したという話を聞いて、『渡って元気になる橋にしたら』と夫に言つたんです。そしたら『音符でもやろうか』って

当時、中学の音楽の先生だった貞子さんが曲を探して、「これでいいのか」となつたらしい。五線に見立て

橋を設計した故日種後哉氏は、なぜベートーベンの「第九」の音符のデザインを施したのか。妻貞子さんが兵庫県三木市にご健在で、話を聞くことができた。

「その前の大正橋がよく揺れて、設計者が心中したという話を聞いて、『渡って元気になる橋にしたら』と夫に言つたんです。そしたら『音符でもやろうか』って

當時、中学の音楽の先生だった貞子さんが曲を探して、「これでいいのか」となつたらしい。五線に見立て

た高欄に収まるように、音符はおたまじやくしでなく、出張りのような形に

ぐ、出張りのような形に

したから、よく見ないと音符とはわからない。

今や年末になると、あちこちで「第九」が歌われるが、そのころは今ほどメジ

ヤーではなかった。完成し

て初めて橋を渡った時、貞子さんは「これをわかつて

くれる人が一人でも二人でもねつたらなあ」と願つた

という。大阪案内人の西俣

稔さんが、まち歩きのガイドをする時、この橋を「第九」を歌いながら渡ってる、

と伝えると、貞子さんは「さ

わが町にも歴史あり 知られざる大阪



さやかな望みが、ちょっとずつかなってるんですね」と実にうれしそうだった。

ある時、市民から区役所に「あの音符はメロディーが違う」と指摘があった。

どうも、橋の下を航行した船が橋にぶつかって高欄を壊してしまい、それを元に

戻したつもりが、逆さまに

はめ直すかどうかしたものが、メロディーが狂つたのだという。「昭和のころやと思いますわ」と、貞子さんがおかしそうに教えてくれた。

ただ、歩道の鍵盤模様やメトロノームは、日種氏のアイデアではなかった。あとから加えられたものだ。だから、メロディーが狂つたのだという。「昭和のころやと思いますわ」と、貞子さんがおかしそうに教えてくれた。

ここにも♪ 「第九」の音符



大正橋と兄弟橋の愛知県阿久比町のオアシス大橋=阿久比町役場提供

関西の親類から話を聞くと……

町長「乗った！」県に掛け合い

愛知県阿久比町

さて、大正橋と兄弟橋の契りを結んでいる橋がある。愛知県阿久比町に89年に開通したオアシス大橋だ。上流側の高欄には「第九」の音符がデザインされている。これには大正橋とのくしき縁があった。

◇
西俣さんによると――。

関西に住んでいた母子がタクシーで大正橋を渡っていた。波瀬で止まっている時、バイオリニストの息子さんが高欄の音符に気付いた。「第九のメロディーだよ」。お母さんのいとこが当時の阿久比町長で、この話をしたところ、町長が乗つて、県に掛け合って実現させたという。

オアシス大橋の開通式には、日種さん夫妻や、町長のいとも招待された。実は大正区には、まだ「第九」の因縁があるのだが、それはまたのちほど。



大浪・大豊・豊吹橋

名前の由来ご存じ？



大正橋を渡ると浪速区

西俣さんと大正橋の上から下流を眺める。JR大阪環状線の先に大浪橋が架かる。「英語で言うとビッグウェーブ。大阪湾が近いから、こんな名前が付いたのかと思うけどさにあらず。

大正区と浪速区をつなぐからです」

こういう名前の橋はほかにもある。神崎川の大豊橋は、大阪市と豊中市を結ぶから。豊田と吹田の境を流れれる高川には、豊吹橋がある。両岸から一文字ずつ取れば、角が立たないのだろう。

西俣さんは、「江戸時代の地図には、日吉橋が載っています。脈々と橋の名前が受け継がれてるわけです」と西俣さん。近くの道頓堀川に日吉橋がかかる。

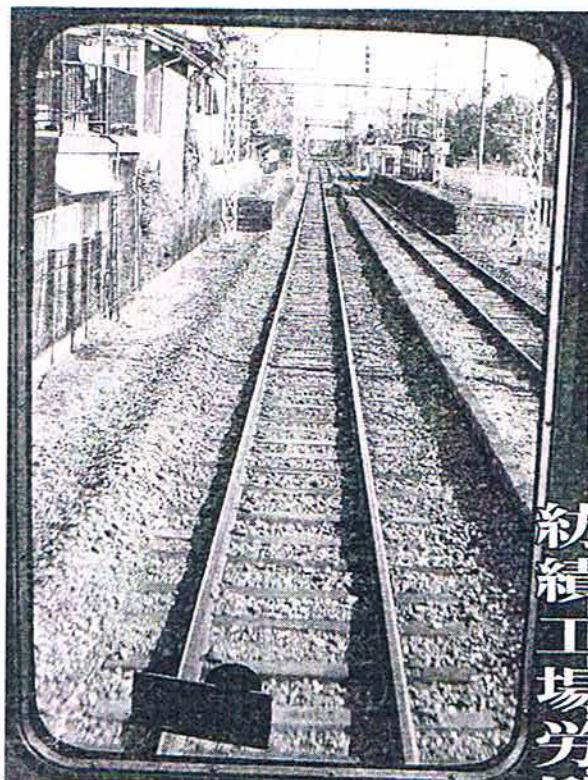
「日吉は豊臣秀吉の幼名やけど、橋の名前の由来ではない。だいたい、徳川幕府が架けてんのに、あり得ない。低湿地だったので、ええ名前を受けたんでしよう。その証拠に、この先に幸橋って名前が残ってる」。西俣さんがひとくさり。

大阪市浪速区
西成区

172

南海汐見橋線

南海汐見橋線の線路がまっすぐ延びる



紡績工場労働者のにぎわい今はなく

2両編成のんびりと

ぐ北の道頓堀川に架かる橋の名前で、「大阪湾の潮の満ち引きを見るのに良かつたんですね」と西俣さん。駅は1900(明治33)年開業と、かなり古い。2両編成の電車に乗り込む。1時間に2本しかないから、西俣さんは時間を見計らって、駅へ来たのだが、はて大正区を歩くはずなのに、いすこく? どうも、今回は寄り道が多い。

の前には西成高校と西成公園が広がる。西成区だ。「ここに大日本紡績津守工場が効いていた。この津守氏が労働者でにぎわってたんだね。工場は空襲で焼けてしまった」と西俣さん。のどかに犬の散歩をする人たちが憩っている。ここで西俣さんが「津守」についてひといさり。「昔の行政単位は摂津や河内、和泉などの國の下に郡がある。この下には村や町が地名になったわけだ。さらに西成について。「上から西成。東に成ったのが東成。今の東淀川区や福島区の一部まで西成郡でした。その名残は近世まで残っていた。福島区と西淀川区を結ぶ淀川大橋は、大正時代まで西成大橋だった。ユーバーサル・スタジオ・ジャパンに行くJR桜島線は、西成線と呼ばれていた。

電車と渡しで回り道

いた。

わが町にも歴史あり
知られざる大阪

大阪案内人の西俣稔さんが「このあたりの町名は桜川。江戸時代の古地図に『サ

クラ川』という細い川が載っているんです」。古地図をみると、千日前通と並んで、木津川が流れている。「ほとりには桜が並んで、きれいな風景やったんやうね」と、その昔に思いをはせる。失われた風景が、地名に残る。

見れば、今の千日前通と並行して、サクラ川が流れている。「ほとりには桜が並んで、きれいな風景やったんやうね」と、その昔に思いをはせる。失われた風景が、地名に残る。

しばらく行くと、南海汐見橋駅がある。汐見橋はす

乗客はまばら。大阪の真ん中を走ってるのに、なんとかのんびりした感じだ。芦原町、木津川と過ぎて、次は津守のアナウンス。「次は津守」と、その昔に思いをはせる。失われた風景が、地名に残る。

しばらく行くと、南海汐見橋駅がある。汐見橋はす



り、さるにその下に郷がありました。ここは摂津国、西成郡津守郷。奈良時代から呼んでいて、津守は古代、難波津の港を管理する役職でした。この津守氏が住吉大社の宮司になるわけです」。つまり、役職名が地名になつたわけだ。

。

心浮き立つ水の風景



落合上渡船場や
アーチ状の水門

落合上渡船場。右手が木津川でアーチ状の水門がある。左手が三軒家川

住宅街を抜けて北へ歩く。木津川の堤防に、落合上渡船場があった。大阪市営で、無料で川を渡る渡船は、大正区を中心に8カ所ある。

堤防上から眺めると、木津川と三軒家川が落ち合っている。三軒家川は、川といつても途中が埋め立てられて、行き止まりになってしまい。木津川にはアーチ型の水門が備わり、三軒家川側にはゴルフの打ちっ放しのネットがそびえる。下流に目を転じれば、巨大なクレーン。水の風景は、どこか心を浮き立たせる。

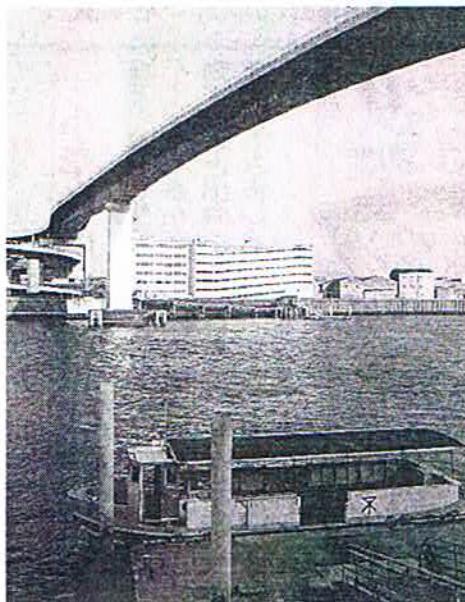
「川の合流点だから落合。川相も相川もそう。愛甲は相川の当て字です」。落合も川相も相川も愛甲も、プロ野球でおなじみの名前。「ついでに高槻の成合も同じ。自然の風景から、いろんな字を当てたんですね」渡し船にはおっちゃんや自転車のおばちゃんたちが乗り込む。「はい、こんにちはー」と女性職員があいさつしてくれる。わずか40秒につしてくる。汐見橋線に乗ったわけがわかった。回り道して大正区に戻る。

【松井宏貴】

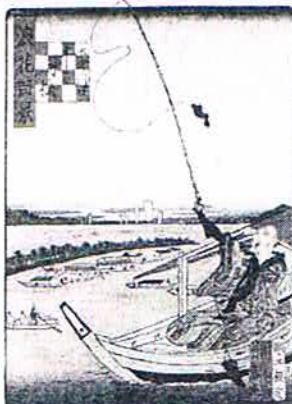
昭和山

大阪市大正区 173

大阪7低山の一つ



千本松の渡し
昔は魚料理と松の景勝地



千本松大橋の下にある千本松渡船場
「浪花百景」に描かれた「木津川
千本松」——なにわの海の時空館所蔵
昭和山の山頂。大阪湾が望める



前回、汐見橋かいわいに
古い船問屋があることを
紹介したが、江戸時代中期
の大坂の大店を舞台にした
「辰巳屋疑獄」に、こんな記述があ

るのを見付けた。

「道頓堀の河口に架かる

汐見橋の北詰に、唐金屋と
いう大きな廻船問屋がある
のは大坂の者ならだれでも
知っている。唐金屋は大昔
に大通丸という四千石の巨
船を海に走させていた。そ
の船のなかには米を脱穀す
る唐金屋や野菜畑まであ
ったという。ちなみに井原
木津川を下ればすぐに大
阪湾。大きな回船問屋が店
を構える、海への玄関口だ
ったわけだ。

さて、前回の続き。汐見

橋線津守駅で降り、落合上

西鶴の『日本永代藏』に登
場する神通丸とはこの船の
ことである

渡船場で渡し船に乗った。
天橋立、三保の松原

名通り、松並木が連なつ
ていた。天橋立、三保の松原

ちなみに、木津川を下れば、
木津川を下ればすぐに大
阪湾。大きな回船問屋が店
を構える、海への玄関口だ
ったわけだ。

落合下、千本松、木津川の
3カ所の渡船場がある。千
本松の渡しの辺は両岸と
も工場が並ぶ。その昔、対岸
の西成区南津守の岸には、
とも風流であるが、鉄塊ば

す人々もいたという。なん
た魚を料理して、酒宴を催
された所で、漁師にとらせ
ていた。天橋立、三保の松原
と並ぶ景勝の地として名を

はせた所で、漁師にとらせ
ていた。天橋立、三保の松原
と並ぶ景勝の地として名を

よそ想像だにできない。

標高 33メートル「港が見える丘」

捨てられた残土 ダンプ 57万台分

行きつ戻りつするが、大正区に戻り、落合上渡船場から西へ歩くと、小高い丘が現れた。昭和山だ。「低い山やけど、登るだけっこうきつい」と大阪案内人の西俣稔さん。えっちらおっちらと頂上にたどり着くと、ソシジが満開（登山したのは5月）で、小鳥のさえずりが耳に心地よい。

標高33m。大阪7低山の一つに数えられる。ほかは

日本一低い港区の天保山（4・5m）▽天王寺区の茶臼山（26m）▽阿倍野区の聖天山（14m）▽堺の蘇鉄山（6・8m）▽鶴見緑地の鶴見新山（39m）▽此花区・舞洲の新夕陽ヶ丘（25m）。

正区に戻り、落合上渡船場から西へ歩くと、小高い丘が現れた。昭和山だ。「低い山やけど、登るだけっこうきつい」と大阪案内人の西俣稔さん。えっちらおっちらと頂上にたどり着くと、ソシジが満開（登山したのは5月）で、小鳥のさえずりが耳に心地よい。

元は貯木場があったが、南港へ移転し空き地となっていたところへ、昭和40年代に地下鉄工事の残土が捨てられた。【なんどダンプか】57万台分です」と西俣さん。大正区に昭和山とは、これいかに？ 江戸時代の天保年間、安治川をしゅんせつした土砂でできた天保山にならい、昭和時代に人工でできた山だから昭和山と命名されたわけ。

戦後間もなくはやった歌謡曲にちなんで、「港が見える丘」とも呼ばれるといふ。なみはや大橋など大阪湾の景色が見え、季節によつては夕日も鮮やかだ。下山には2分しかかかりなかった。

【松井宏員】

岡島嘉平次

大阪市大正区 174

わが町にも歴史あり
知られざる大阪

昭和山は千島公園の中心に位置する。このあたりの地名が千島だ。その昔、大阪湾江には幾多の島が浮かび、「難波の八十島」と呼ばれた。「八十」は、たくさんという意味だから、千島の由来も「千ほども島があつた」ということから?

大阪案内人の西俣稔さんが「そう思われがちやけど、違います」と一笑に付す。

「千林村(今の旭区)出身の中でも、岡島嘉平次は、

1757年から明治時代初めに至るまで、代々この名前を襲名し、千島や恩加島、

小林などを開き、田畠の開発に精魂を傾けた。

初代は千林の庄屋で、独学で埋め立ての技術を学

び、その財力を駆使して千島などを開いた。当初、大

江戸時代の恩加島新田の堤防は川砂を積んで粘土質で

土塗りしただけで、幾度も決壊したという。堤防にはキツネがすみ、水害が起きるとすみかの穴から浸水しそうだ。

こうした功績をたたえて、時の代官が「この恩を後世に加えるべし」と名付けたのが恩加島だ。「大阪

人物辞典」によると、代々の岡島家が開いた新田は17

千島、恩加島、小林……

代々続け 17カ所も



大正中央中学に保存されている
嘉平次橋の親柱

橋の親柱4本
中学校に保存

新田開発に精魂傾け

が下かる。許可されるや、を納めて着工。自らが開い
て付けられました。恩加島

「小林は千林の林を取つ
らいいです」と西俣さん。も
ちろん、岡島の字を替えて
いる。南端の南恩加島は2、
3代が開墾。この地は砂州

で、沖合に近かったから、
工事は難波したと思われ
る。[大正区史]によれば、
江戸時代の恩加島新田の堤

防は川砂を積んで粘土質で
土塗りしただけで、幾度も
決壊したという。堤防には
キツネがすみ、水害が起き
るとすみかの穴から浸水し
たそうだ。

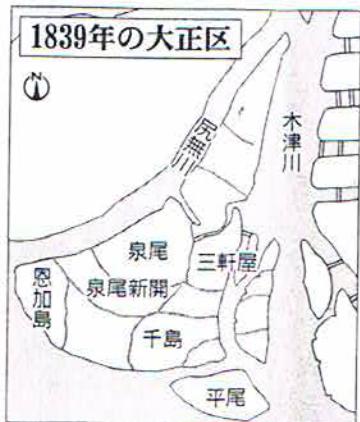
こうした功績をたたえて、
時の代官が「この恩を
後世に加えるべし」と名付けたのが恩加島だ。「大阪
人物辞典」によると、代々
の岡島家が開いた新田は17
にのぼるという。

土地や橋に その名を刻み

語り継がれる功労者

かつて、岡島嘉平次の名
を取った橋があった。19
23（大正12）年、木津川
と尻無川を結んで、大正区
のほぼ中央を東西に横切っ
て開削された大正運河。70
(昭和45)年に埋め立てら
れて役割を終えたが、ここ

に嘉平次橋が架かってい
た。



に嘉平次橋が架かってい
た。

石でできた親柱4本が大
正中央中学に残っている。
体育館の前にソテツなどが
植えられた小庭園があり、
大正運河に架かっていた材
木橋の親柱とともに、配置
されている。経緯について
は判然としないが、運河の
埋め立てで橋が取り壊され
た際、当時の校長がもらい
て受けた学校に保管していた
という。

別の水路には千林橋とい
う橋がある。こちらも今
はないが、恐らく岡島嘉平
次の出身地、千林を読み替
えたのではないかと思われる。

【松井宏員】

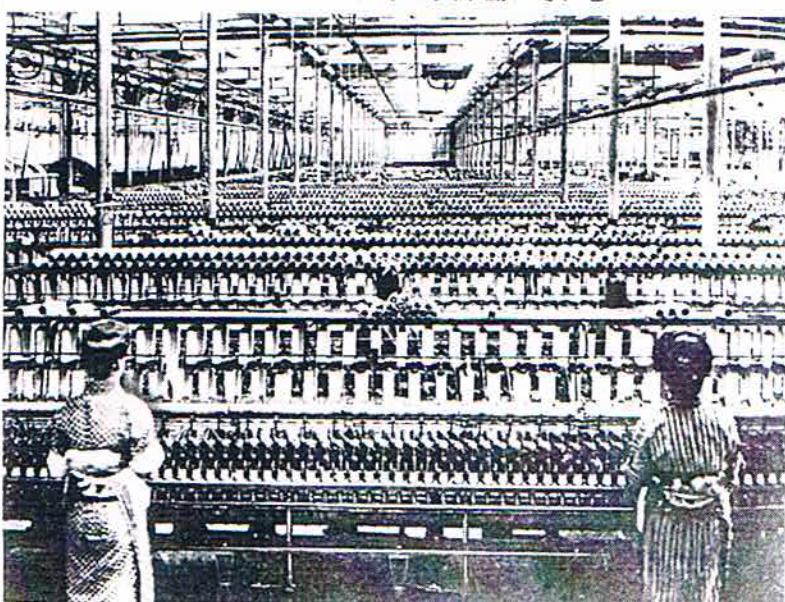
紡績工業発祥の地

大阪市大正区 175

明治16年三軒家で操業



① 三軒家公園に建つ「近代紡績工業発祥の地」の碑。ハトが羽を休めていた
② 大正中期の大正紡績三軒家工場内の様子。1万500錘の機械が並び、着物姿の女子工員が働いている



前回は新田開発の功労者、岡島嘉平次について触れたが、現在の大正区の土地を開いたのは1人だけではない。

岡島嘉平次が開いた千島の北の泉尾は、1702年に工事が完了した。開墾したのは豪農の北村六右衛門。「この人は和泉国踞尾村の人で、和泉の泉と踞尾の尾を取って、泉尾です」と大阪案内人の西俣稔さん。踞尾は今の堺の津久野だ。

〔大正区今昔話〕による

新田開発の功労者、岡島嘉平次が開いた千島の北の泉尾は、1702年に工事が完了した。開墾したのは豪農の北村六右衛門。「この人は和泉国踞尾村の人で、和泉の泉と踞尾の尾を取って、泉尾です」と大阪案内人の西俣稔さん。踞尾は今の堺の津久野だ。

〔大正区今昔話〕による

わが町にも歴史あり 知られざる大阪



新田開発の功労者

泉尾や平尾にも

は寄進し、旅人が迷うのを見て道標を建てたりしたと伝わる。私財を投じて開いた泉尾門は先頭に立って復興に乗組り出し、その姿に小作人たちが感激してあとに続き、翌日努力のかいあって、翌年春には新田を復興させた。

泉尾新田は明治時代になっても北村家が所有していたが、北村家が創設した北新田だったが、1707年の大地震で、津波にのまれてしまった。84歳の六右衛門は先頭に立って復興に乗組り出し、その姿に小作人たちが感激してあとに続き、翌日努力のかいあって、翌年春には新田を復興させた。躍尾村の家屋敷も

失った北村家を、泉尾の住民が迎え、以来、北村家は大正区に住み続いている。泉尾の南隣の北村という地名は、北村家の功を今に伝えている。

西俣さんは「昔の人たちの大変な苦労を、地名に残しているのはすばらしいこと」と言う。礎を築いた人々の名は、これからもずっと語り継いでいきたい。的だったようだ。

西俣さんは「昔の人たちの大変な苦労を、地名に残しているのはすばらしいこと」と言う。礎を築いた人々の名は、これからもずっと語り継いでいきたい。



地域振興に大きな役割

その後、造船やれんが工場も

こうして芦原や砂州が開かれ、田畠や人家ができる大正区は、明治になると工場が建ち並んでいく。「近代紡績工業発祥の地」の碑がある三軒家公園は、大阪紡績（現東洋紡）の三軒家工場跡だ。

大阪紡績が1883（明治16）年7月、本社を置いて操業を始めた。実業家の渋沢栄一や藤田伝三郎が出資して大阪紡績が設立されたのはその前年のこと。日本初の民間会社による紡績業であった。

三軒家の地を選んだのは、原材料や製品を輸送する水運の便が良かったから、とされている。だが、東洋紡社史編集室の村上義幸さん（80）は「どこでも良かつたんだと思いますよ。最初は中津に土地を借りる話があったが、大阪府のあつせんで三軒家に決まっています」と解説してくれる。

1万5000疊の機械が並ぶ、当時としては巨大な工場で、明治19年には夜間操業のために発電機を導入。不夜城のように浮かぶ工場の見学者が絶えなかつたという。これについても村上さんは「夜間操業は最初からやつてたんですが、石油ランプをたくさんともしてたんです。数が多いから手間がかかるのと、危ないのとで電気を使おうと」。関西では初の発電機だった。

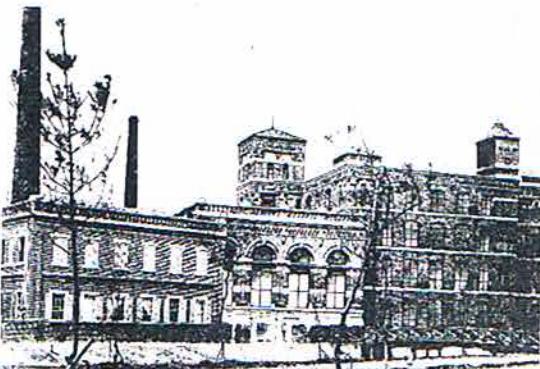
また、工場の周辺には飲食店や寄席などができてぎわい、地域振興に果たした役割も大きかった。あとを追うように、造船やれんが工場などが次々に今の大正区にできていく。

シボレー

大阪市大正区 176

わが町にも歴史あり
知られざる大阪

自動車王国になつてた?!

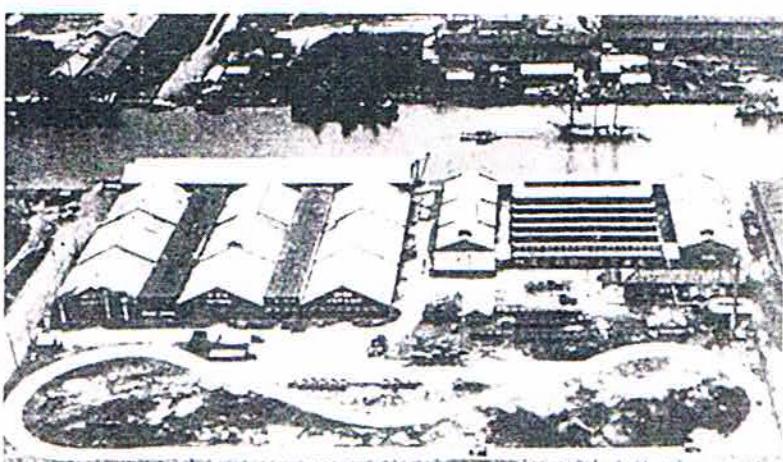


三軒家工場しのぶ赤レンガ
—大阪紡績—



● 総レンガ造りの大坂紡績
三軒家工場 東洋紡提供
● 東洋紡に残る 三軒家工場のレンガ。中央に三角の大坂紡績のマークが入っている

昭和2年 鶴町にGM工場



鶴町にあった日本GMの大坂工場

=日本ゼネラル・モーターズ提供

1914(大正3)、大坂紡績が三重紡績と合併して東洋紡となり、本社を現地の北区堂島浜に移すまで、大阪紡績の本社は工場

で、大阪紡績の本社は工場になる。東洋紡社史編集室の村上義幸さん(80)によると、1952年、社史を編さんす

になる。

ことになった時、当時の

社長が「大阪紡績が設立認可された明治15年5月3日

を創立記念日とする」とい

う社内通達を出した。

三軒家工場は戦闘によつて41年、操業休止となり、住友金属など他社に貸して軍需に転換。45年3月の空襲で焼失してしまった。

三軒家工場の遺構はな

三軒家工場の遺構はなんも残っていないのか。東洋紡社史編集室を訪ねた折、

見せてくれた。そのうち

村上さんが古びた赤レンガ

を見せてくれた。そのうち

紡社史編集室を訪ねた折、

焼け跡から、誰かが拾つて

たという。恐らく、空襲の

煙で焼失してしまった。

レンガです」と村上さん。

工場は総レンガ造りで、レ

ンガはイギリスから輸入し

たという。恐らく、空襲の

煙で焼失してしまった。

レンガです」と村上さん。

工場は総レンガ造りで、レ

ンガはイギリスから輸入し

たといふ。恐らく、空襲の煙で焼失してしまった。その後、三軒家工場のマーカ入り。「間違いない、開業時の工場の一つは、三角形のようだ。三軒家工場しのぶもの

大阪紡績のマーカ入り。間違いない、開業時の工場のマーカ入り。三軒家工場しのぶものは、このレンガしかないのだ。

戦争で操業中止 14年間で15万台販売

工場つながりで、自動車工場の話をしよう。ひとつしたら大正区が自動車王国になつていたかもしれない。もう知らない人も少ないが、アメリカのゼネラル・モーターズ（GM）の工場が戦前、大正区にあった。そればかりか、クボタが出資した「実用自動車製造」も国産自動車を開発していた。この会社は日産自動車の前身となる。

まずはGMから。「横浜製フォード、大阪製アメリカ車」（230クラブ発行、サトウマコト著）などから横浜に工場を構えたフォードに対抗し、GMは遅れること2年、1927（昭和2）年に日本ゼネラルモーターズを設立して、大正区鶴町1（当時は港区）に工場を建てた。

日本で組み立てを始めたフォードに価格で対抗できず、急ぎ日本で工場建設を計画。当初は横浜市が誘致に熱心だったが、GMはフォードが先に進出しているのが気に入らず、このすぎを突いて、大阪市が免税などの優遇措置で猛烈に勧誘したのだった。工場は、船町の渡し近くの紡績工場倉庫のある土地の提供を受けた。工場の建物は、名建築家ボーリズが手掛けた。開業は4月8日。この日の大阪毎日新聞に、日本GMの広告が載っている。「本日を期して 日本ゼネラル・モータース株式会社大阪工場は新型シボレー号の製作に着手致します」と高らかにうたい、その安さを強調している。幌型が1950円、セダンが2700円。教員の初任給が45~50円の

府知事や神戸駐在米国領事らが出席した開業式の模様を、大阪毎日は「一時間に四台づつ自動車が出来る」の見出しで報じている。資本金は800万円で、シボレー・やピュイック、オペルなどを月に2000~2500台製造。第2工場も増設し、合計で約5万平方㍍にもなった。第二次大戦開戦で操業中止に追い込まれる41年までの14年間で、約15万台を販売した。再び日本GMが設立されるのは、93年のことだった。

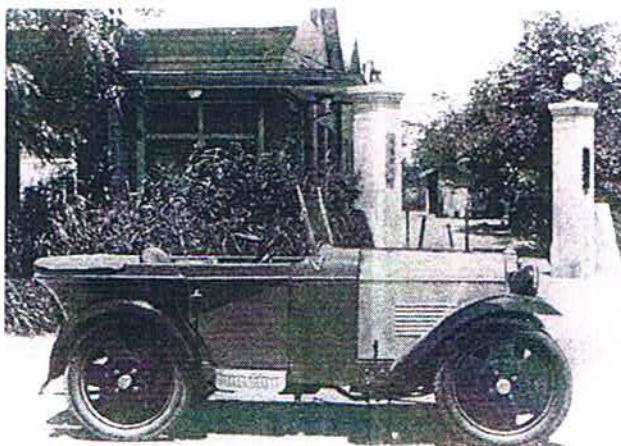
【松井宏員】

日産とトヨタ

大阪市大正区 177

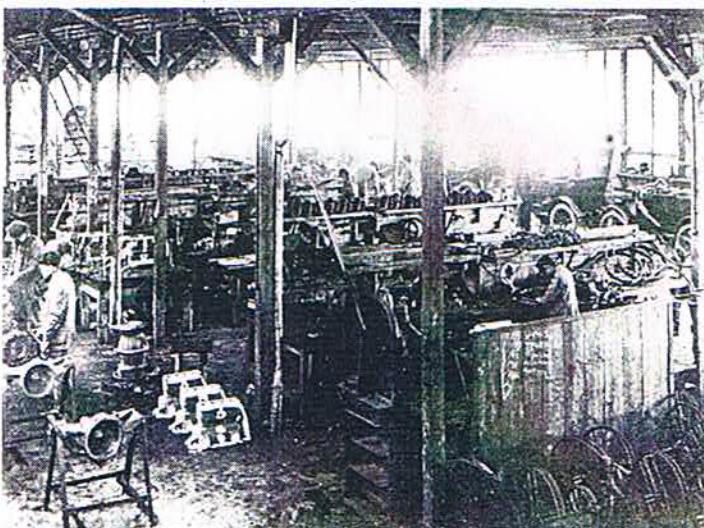
わが町にも歴史あり

知られざる大阪

大阪で製造されたダットサンの試作第一号車
1931年

「幻の自動車王国」大正区。前回はゼネラル・モーターズ(GM)がシボレーを造っていたことを紹介した。お次は国産車の話だ。大正で国産車を開発して

国産車の開発も



南恩加島にあった実用自動車製造の工場

—クボタ提供

四輪自動車に切り替えた。しかし、前回触れたように、「西のGM、東のフォード」と称された米国2社が、大正区と横浜で製造を始めた日本市場を席巻して



鮎川義介

コンベヤーシステムなど先進の米国の技術を取り入れた。米国人技術ゴルハムが開発した三輪自動車を約150台製造。1921年に

ダットサンの誕生へ

いたのはクボタだ。安く小型の自動車をど、久保田篤次郎(のち日産自動車常務)が養父でクボタの創始者、車製造」を設立した。社長は

久保田権四郎に事業化を進め、関西財界も賛同し、1919(大正8)年、「実用自動車会社」と1926年に合併し「ダット自動車製造」となった。水冷式500ccの小型自動車を試作、

1931(昭和6)年には大阪—東京間のノンストップ運行試験に成功した。

この車の名前がダットソン。合併相手の東京の快進社に資金面で協力した田、青山、竹内の3人の頭文字を取って「DATSON」と名付けられたのだが、ソンは損に通じるというので、のちにダットサンと改称された。言わずと知れた日産自動車のブランドだ。

ダット自動車製造は、ノンストップ運行に成功した直後、日産コンツェルンの創始者、鮎川義介が経営する「戸畠鑄物」に譲渡された。これが日産自動車に発展していく。南恩加島の大坂工場も戸畠鑄物が買収し、日産となつた後の1956年まで稼働していた。

販売の神様から輸入車業者まで

後の業界担う 中心人物集う



さるに「トヨタ」
まで大正区にあつた。といつても自動車ではない。豊田佐吉が発明した動力織機の製造を目的に設立された「豊田式織機」(現・豊和工業)の大坂支店工場が、当時の泉尾町(今の三軒家西の金光教教会)にあったのだ。同社はもともと大阪で設立され、佐吉も役員に名を連ねていた。

工場は1916(大正5)年に開業し、45(昭和20)年に操業をやめた。佐吉が創業し、のちにトヨタ自動車に発展する豊田自動織機製作所の工場だとする記述が、大正の歴史を書いたものに散見されるが、「豊田」違いである。

ただし、トヨタ自動車の草創期に大きな役割を果たす人物が、大正区にいた。日本GM広告部長だった神

谷正太郎だ。1929(昭和4)から6年在籍。トヨタ自動車生みの親の豊田喜一郎に「販売は任せる」と口説かれて、豊田自動織機に移る。トヨタ自動車販売の初代社長。全国に販売網を築き、大学卒のセールスマンの採用や月賦販売制度、先進的な販売政策を築き、「販売の神様」と称された。

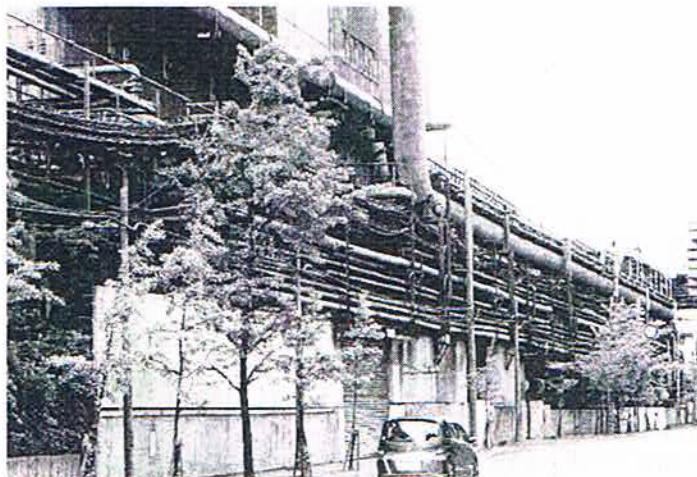
輸入車のヤナセの前身「梁瀬自動車」を創業した梁瀬長太郎も、GMの販売権を持っていたから日本GMに出入りしていた。こうして見ると、大正区は国産自動車の草創期を担い、外車まで製造された自動車業界の中心人物たちが集っていたのだ。日本自動車産業生みの地と本の自動車産業生みの地と言つていいだろう。

【松井宏員】

木津川飛行場

大阪市大正区 178

稼働わずか10年



中山製鋼所の工場は、ダクトが道路脇をはっている 「木津川飛行場跡」の石碑は、目立たぬ高架の下にあった

自動車の次は、乗り物つながりで飛行場の話といこう。大正区に民間の飛行場があったのだ。大正区の最南端、船町の木津川べりにある中山製鋼所の工場が、飛行場跡にあたる。

1929(昭和4)年4月に開港した木津川飛行場工場が林立する。中でも大

今は中山製鋼所の工場

（またの名を大阪飛行場）は、伊丹空港ができた1939年に閉鎖されたから、わずか10年の稼働だった。

「大正歴史を語る会」の松田邦雄さん(74)に案内してもらった。車で木津川運河を渡り、船町に入ると、「ブラック・レイン」のロケが行われたんですよ」と

正区に本社を置く中山製鋼所の工場が、いくつも巨大な姿を見せる。道路脇にダクトがむき出しになつていて、その光景は、ある種の異空間だ。

松田さんが「ここは映画『ブラック・レイン』のロケが行われたんですよ」と教えてくれる。89年に公開された高倉健と故松田優作、マイケル・ダグラスが共演したハリウッド映画だ。映画館に見に行つた。見慣れた大阪の街が、えらくカッコ良く見えたものだ。

さて、新木津川大橋の北端がぐるりと円を描くその下に、大阪市が建立した「木津川飛行場跡」のまだ新しい石碑が建っている。

わが町にも歴史あり

知られざる大阪



元の格納庫はなお“現役”



カマボコ屋根の元格納庫

元飛行場の名残などは何も残っていないだろうと思いませんが、松田さんが道路をはさんだ向かいの中山製鋼所の工場を指さす。「あのカマボコ屋根の建物が元格納庫です」

屋根が青と赤に塗られた元格納庫は、なんとまだ現役だ。飛行場跡を買い取った中山製鋼所は、元格納庫をそのまま使い続けており、現在はバルブなどの製造工場になっている。古いものをどんどんつぶして発展してきた戦後の大阪にとって、なんと貴重なことだろうか。

木津川河口の埋め立て地には1923(大正12)年、水上機による定期便を飛ばすために、飛行場が開設された。水上飛行場というと聞こえはいいが、要するに木津川に水上機が着水するのだ。その当時、職員として働いていた人の話を松田さんが聞いている。「乗客を肩車して川に入り、飛行機に乗せた。会社のえらい

さんが愛人連れて乗ったのが忘れられない」。

木津川飛行場は、通信省航空局が軍用地と市有地の約39万平方㍍を整備。1929年4月1日から航空郵便が始まる。大阪毎日新聞の記事は「大阪のステーション木津川飛行場は国際飛行場となつたので場の北隅に新設の事務所には新しい吹き流しが立ち、二棟の格納庫も全く完成し、開業にふさわしい新装ぶりを見せた」と報じている。

中山製鋼所に残る格納庫は、恐らくこれだろう。時を同じくして、東京—大阪—福岡を結ぶ国内初の定期航路も開設された。といつても、飛行機の定員は6人と8人。東京—大阪間は片道2時間半かかり、料金は30円。「世界史の中の1億人の昭和史」(毎日新聞社)によると、東京—大阪間は普通3等なら日本一周できる金額だった」と記している。

【松井宏員】

続・木津川飛行場

大阪市大正区 179

本格的エアガール登場

木津川飛行場に昭和4年4月、日本
初の定期空路が開かれたエアガールの第2次テストの
様子。尖端娘が集まつた
=昭和11年9月定員3人
237人応募

木津川飛行場に昭和4年4月、日本
初の定期空路が開かれた

日本航空史」(毎日新聞
社)によると、日本で初めて
エアガールが登場したの
は31(昭和6)年、東京—
下田—清水を結ぶ定期水上
旅客機だった。「小さな飛
行機のことゆえ室内通路も
なく、お客様の横に座つ
て、密着サービス」など
と書いてある。

それから遅れること5
年、木津川飛行場にもエア
ガールが登場するのだが、
日本航空輸送研究所という
名の航空会社が大阪で直接

定員3人に237人が応

募。1次選考で32人に絞っ
て行われたこの日の2次テ
ストの模様は——。参加者

は「いづれも容姿端麗かつ
明朗な近代娘ばかり」。
試

社)によると、日本で初めて
エアガールが登場したの
は31(昭和6)年、東京—
下田—清水を結ぶ定期水上
旅客機だった。「小さな飛
行機のことゆえ室内通路も
なく、お客様の横に座つ
て、密着サービス」など
と書いてある。

尖端は先端、時代の先を行くという意味だが、この当時はそれがどうしたことだったのかも……。ともあれ、この記事には「日本最初の本格的エヤー・ガール」ともある。水上機は試して、こちらが本格的といふことか。

定員3人に237人が応募。1次選考で32人に絞って行われたこの日の2次テストの模様は——。参加者は「いづれも容姿端麗かつ明朗な近代娘ばかり」。試

わが町にも歴史あり

知られざる大阪

現在の大正区船町にあつた木津川飛行場は、1929(昭和4)年の開港以降、名古屋や福岡、高松、白浜間など、次々に増便されていった。また、国際空港だったから旧満州の大連や上海、京城(ソウル)便も就航し、機内食に大阪名物の小鯛すずめしが出て、好

評だったという。

駿は「左手に見

えます島は通ふ千鳥の淡路島、その彼方なる播磨灘」と説明文を朗読させて

これでは、まるでバスガイドだ。

アガールがお目見えした。

阪毎日新聞の見出しぶり。

「飛行機に乗り度い尖端」。

ド。

アガールがお目見えした。

阪毎日新聞の見出しぶり。

「飛行機に乗り度い尖端」。

ド。

アガールがお目見えした。

阪毎日新聞の見出しぶり。

「飛行機に乗り度い尖端」。

ド。

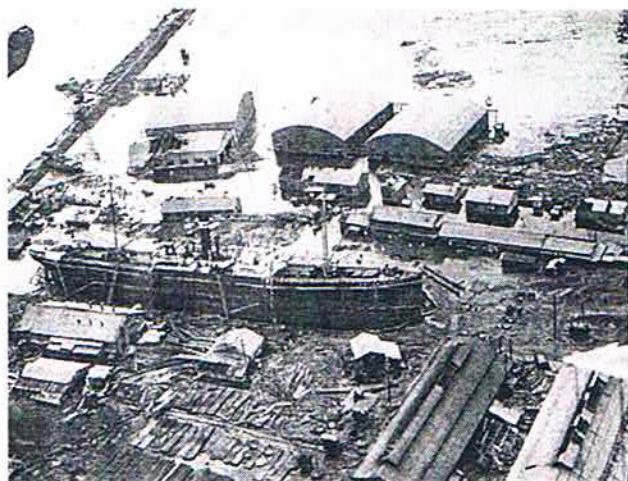
アガールがお目見えした。

阪毎日新聞の見出しぶり。

「飛行機に乗り度い尖端」。

ド。

アクセス悪く工場の煙で事故も



9月21日
宮古台風の高潮と烈風で、
木津川飛行場（奥）は水漫
しに。手前の造船所では入
渠（いりきょ）中の船が
ドックを壊した〔昭和9年〕

木津川飛行場
の38（昭和13）
年の年間発着
便は、定期便51
07回、不定期
便3676回、
旅客1万124
人、取扱貨物3万8700
キロ、郵便9万7700
キロと、
国内トップクラスだった。
また、31年には、かのり
ンドバーグが木津川に着
水。37（昭和12）年には、
上海をたったフランスの飛
行士ドレ・ミケレッチが高
知で遭難し、臨時便で木津
川飛行場に降り立つなど、
話題には事欠かなかった。
37年に木津川運河に大船
橋ができるまで、空港には
渡し船に乗らないと行けな
かった。しかも大阪の中心
部から車で約1時間もかか
った。大阪生まれの作家、
直木三十五は、居を定めた
東京との行き来に飛行機を
よく使った。夕刊大阪新聞
に30（昭和5）年に連載し
た随筆「大阪を歩く」に、
こんな一文がある。

【松井宏員】

「そして飛行機は木津川
尻へ着くが、ここから大正
橋までは返屈でもあるし、
腹も立つし大阪軽蔑心も湧
き出してくる。実になった
あらへん所である。（中略）
尖端的な飛行機発着場への
道として——それは道でな
く、自然の土の上へ軌道を
敷いただけのものである」
まあボロクソだ。直木の
「大阪軽蔑心」をさっぴい
ても、便が悪かったのがわ
かる。

しかも、発着便が増える
に従って手狭になり、周辺
の工場の煙突からはき出さ
れる煙が邪魔して墜落事故
が起きるなどしたから、移
転話が進む。34（昭和9）
年に開港した八尾空港や伊
丹空港に機能を引き継ぎ、
閉鎖された。

今木刑場

大阪市大正区 180

医学の発展に貢献

（1747～1812）は、
堀江の開業医、伏屋素狄（
1747～1812）は、

同時に、今木刑場は医学
の発展にも貢献していた。
と言えば、多少は夢も希望
も出で来るか。刑死した死
体を解剖した学者たちがい
たのだ。

大浪橋近くの三軒家東2
に、江戸時代、今木刑場が
あった。芦が茂っていたので
で霞島と呼ばれていた中洲
にあつた刑場で、幾多の罪
人がさらし者にされ、首を
はねられた。



実験生理学の祖

伏屋素狄

わが町にも歴史あり
知られざる大阪和光寺の阿弥陀池の
ほとりにある伏屋素
狄の顕彰碑—大阪市
西区で

1800（寛政12）年、37歳の女性の刑死体を譲り受け解剖。動物実験なども繰り返して、腎臓が尿をこす器官だということを初めて明らかにした。

刑死体を解剖し

腎臓の機能を解明

やってみて、実験・実証主義を尊重した学者が多い。

素狄は典型的なそのひとりである」と評している。

碑文によれば、墓が失われたので、医院を開いていた堀江に近い和光寺に、日本本医史学会と日本生理学会の有志が1967年に建立したと

いう。

また、素狄と交わ

りのあつた産婦人科医の各務文献（1765～1829）は、

夫婦で今木刑場に忍び込んで死体を盗み、自宅の床下に隠

して研究したと伝わる。文献の墓は、天王寺区の浄春寺にあ

る。適塾の門下生が

「解剖社」を結成して人体研究にいそしんだのも、今木刑場

だった。

大坂独特の実験・

実証主義を支えたの

が、今木刑場だった

各務文献は死体盗み自宅に隠し研究

西区北堀江の和光寺に、
素狄の顕彰碑がある。境内
の阿弥陀池のほとりに建つ
碑には、「実験生理学の祖」と刻まれている。実験の成
果は「和蘭医話」に著した。
三善良司さんの「大阪史蹟
辞典」は、「蘭医学は江戸
と大坂を中心に広がるが、
江戸の場合は蘭書の翻訳や
紹介が主であった。しかし
て、今木刑場だった。

「大正歴史を語る会」の『うどん』を書き上げた」という。

松田邦雄さん(74)が教えてくれた。「今木刑場が出て

1933(昭和8)年に

来る森鷗外の小説があるんですよ」と。短編小説「最

後の一句」は、江戸時代中

期を舞台に、斬罪に処せら

れようとしている船乗り業

の父親を救おうと、西町奉

行所に嘆願に乗り込む娘た

ちの話だ。冒頭に「木津川

口で三日間さらした上、斬

罪に処すると、高札に書い

て立てられた」とあるのが、工場、車馬の往来が立てる

江戸中期が舞台

森鷗外の小説にも登場

今木刑場のことだ。

小説つながりで、もう一

つ。大阪生まれの作家、武田鱗太郎の作品に、大正橋のうどん屋「つるや」を舞台にした「うどん」がある。

「大阪史蹟辞典」によると、

鱗太郎は東京帝大で左翼運動にひかれ、プロレタリア小説を書くが、行き詰まって大阪に戻り、井原西鶴に傾倒。「一切の観念を捨ててありのままの人間を描くことが小説だと悟り、この

土ぼこり、尻無川には伝馬船がびっしり浮かぶ。当のつるやは、職工相手の小汚い店で、油虫がはい回っている。

まったく観念の入り込む余地のない町ではないか。

書かれた「うどん」は、うどん屋の看板娘に恋するが、どうにもできずもんもんとしながら、うどん屋に通う中学生の初恋を書いた短編だ。

そこに描かれる町は—— 惡臭をまき散らすガスタンクがそびえ、電車車庫のやかましさやら、製材所、鉄

【松井宏員】

大阪俘虜収容所

大阪市大正区(181)

わが町にも歴史あり 知られざる大阪

大正区をすいと南へ行く。市のごみ焼却場・大正工場の赤と白の煙突の手前、平尾1丁目の木津川にほど近い平尾亥開公園では、子どもたちが草野球に興じていた。狭い公園の中に、「大阪俘虜収容所」のパネルがある。

大阪案内人の西保穂さん

の解説。「1914(大正3年)11月から1917(大正6年)2月まで、第一次大戦で捕虜になったドイツ人の収容所があったんで



—第一次大戦 中国・青島で敗北
1914年から2年余



大阪俘虜収容所の全景
(鳴門市ドイツ館所蔵)

駆けた自動車工場や飛行場や、いろんなものが集まつたのだろう。言うなれば、夢や希望をかけた開拓精神に富んだ地。得てして、そういう土地には、一般からは隔離しておきたい施設もできるわけで……。開拓者が乗り込んだ北海道に網走刑務所があるように。

想像するに、大阪の西の端に新田開発で土地が広がっていった所だから、人があまり住んでおらず、「東洋のマンチャスター」を担った紡績工場や、時代に先

收容所に充てられたのは、1908(明治41)年、流行したペストに備えて患者を隔離するために造られた施設だったから、この想像もあながち的はずではないだろう。ペスト患者は収容されなかつたが、翌年に起きた「北の大震」の被災者約2万2000人が一時、仮住まいした。

ドイツ兵400余人抑留

「その態度や頗る呑氣」 見物人殺到 警察が排除

第一次大戦中の1914

年11月、中国・青島のドイツ軍を日本は英國との連合軍で破り、捕虜は日本国内の12カ所に設けられた収容所に送られることになった。大阪の収容所となつたこの場所に11月21日、467人のドイツ兵がやって来た。

大阪毎日新聞はその模様

を「大阪へ來た俘虜一行その態度や頗る呑氣」の見出しで報じている。一行の中で、バイオリンを抱えている若い水兵が目を引いた。青島ろう城軍の中で唯一のバイオリニストだった。という。この水兵が、のちのち大正区とドイツを結びつける役割を果たすテオドル・エアハルトだった。といつても本人のあずかり知らぬところではあるが……。

記事はさうに、黒山の見物人が出たので、九条警察署の署長が馬に乗って署員を指揮し、混雑をさばいた様子を描く。「俘虜先生は見物人中の娘を見ると何だかコソコソ笑っている。見物人は『独逸の俘虜は呑氣やなあ』と感心する』とあるが、のんきなのはお互いさまだ。

翌朝、記者は「最初の夜にどんな夢を結んだか」と、収容所を訪問する。「大阪はズンと西のはての」という表現に、当時は西区だったこの地が、やけに遠い所だったことがわかる。

さうに翌24日には「俘虜見物大賑」木津川尻の人出」の記事が載っている。

狭い庭内をお百度踏んだり、長い足を投げ出してひなたぼっこしてゐる捕虜たちを、堤防から見物してはヤンヤと言つてゐる見物人を、警官が追い払う。外国人が物珍しい時代のこととはいへ、実に珍なる光景だ。

大阪俘虜収容所

大阪市大正区 182

幻のバルトの楽園

「続・大正橋」(7月1日付)の回で、ベートーベンの「第九」の音符がデザインされた大正橋にまつわるエピソードを紹介した。その中で「実は大正区には、まだ『第九』の因縁があるのだが」と書いたのを覚えておいでだろうか。ようやくそれに触れる時が来た。

日本で「第九」が初演されたのは1918(大正7)年6月1日。場所は徳島県鳴門市にあった「板東俘虜収容所」。演奏・合唱したのはドイツ人捕虜たちだった。この話は6年に公開された松平健主演の映画「バ

わが町にも歴史ある
知られざる大阪



劇団ができて芝居も上演した。前列右から2人目が工アハルト氏

「第九」日本初演の地



大阪は充実していたという合唱団
(写真はいずれも藤井寛さん提供)

ルトの樂園で描かれたから、ぞんじの方も多いと思う。大正区にあった大阪俘虜収容所と、その「第九」初演に因縁があるのだ。板東

収容所で演奏を指揮したへ所に移り、その後、板東收

ルマン・ハンゼン兵曹が、容所に移動した。この部隊日本で最初に過ごしたのが大阪にどどまっていれンゼンが属する部隊206人は、大阪に収容されたわば、ひょっとして大正区が

「第九」初演の地になつて前回、大阪に収容された捕虜一行の中に、バイオリ

ルマン・ハンゼン兵曹が、容所に移動した。この部隊日本で最初に過ごしたのが大阪にどど買っていれンゼンが属する部隊206人は、大阪に収容されたわば、ひょっとして大正区が

「第九」初演の地になつて前回、大阪に収容された捕虜一行の中に、バイオリ

ルトの樂園で描かれたから、ぞんじの方も多いと思う。大正区にあった大阪俘虜収容所と、その「第九」初演に因縁があるのだ。板東

収容所で演奏を指揮したへ所に移り、その後、板東收

ルマン・ハンゼン兵曹が、容所に移動した。この部隊日本で最初に過ごしたのが大阪にどど買っていれンゼンが属する部隊206人は、大阪に収容されたわば、ひょっとして大正区が

「第九」初演の地になつて前回、大阪に収容された捕虜一行の中に、バイオリ



徳島で演奏・指揮の捕虜らがここに

合唱団充実

移送が
なければ!
!?

私物を許可していく、収容所に楽器を持ち込んだし、中立国などから寄付された楽器もあった。ドイツ人の音楽好きは半端じゃなく、エアハルトさんの家族もみ進む。

【松井宏員】

つまり、大正区は「幻の第九初演の地」ということになる。

なん音楽ができたらしい。収容所の研究も続ける藤井さんの解説だ。

大阪收容所の捕虜たちは

藤井さんはデンマーク国境に近いドイツ・フレンズブルクのハンゼン氏の生家

1917(大正6)年2月18日、広島の似島收容所に移動し、大正区の收容所は閉鎖された。もともと陸軍

が府から借用していたペスト患者の隔離施設で、コレラやペストの流行で府に返

すことになったための移動同年2月19日の大阪毎日新聞夕刊は、カナリヤの鳥

帰国すると、町の音楽グループで指揮をしていたというが、40代の若さで亡くなつたという。

かごを大事そうに抱える中尉やら、鞄や行李、毛布などを持つて行列を作る捕虜を「百鬼廻行の図」と表現。收容所から梅田まで、2時間以上歩かれてヘトヘトになつた様を報じている。

「当時の日本陸軍は、捕虜の間に開催された演奏会」が開かれている。

この2月18日を記念して、大正区では「第九定期演奏会」が開かれている。

第4回となる今年は2月28日を開催された。歴史がどりもつ縁で、日独の交流が

進む。

大阪俘虜収容所

大阪市大正区 183

わが町にも歴史あり 知られざる大阪

自由時間たっぷり

撮影した写真から、見てみよう。

いわゆる捕虜収容所といふ。第二次大戦の日本軍のイメージから想起するの

ス、体操などに興じた。

サッカーチームもあつた。藤井さんの調査による

島で日本の捕虜となつたドイツ兵を収容した大阪俘虜収容所。ここでの生活ぶりはどんなものだったのか。

藤井寛さん(62)、横浜市在住が所蔵している、テ

女装する捕虜の写真もある。ほかにもチエスやテニ

ーが与えられていたようだ。だいたい、捕虜はやること

がない。朝夕の点呼と食事以外は自由時間だ。前回、所内の劇団の写真を紹介し

ーがカール・ユーハイム氏がカール・ユーハイム氏が

チエスやテニス楽しみサッカーチームも

解放後、その腕生かし 神戸洋菓子の礎築く

ユーハイム氏 フロインドリープ氏

と、広島の似島収容所に移った1919(大正8)年1月、広島高等師範学校の学生チームと対戦。2試合とも完勝を収めた。大阪では市民との試合はなかったが、チームのキーパーがカール・ユーハイム氏だった。

どこかで聞いた名前では

? バウムクーヘンでおな

じみ、神戸の製菓会社「ユ

ー

ーハイム」の創始者だ。も

ともと菓子職人で、青島で

パンといえば面白い話が

ある。捕虜たちにとって、

食事が不満の種で、中でも

パンはドイツのと全く違う

から不評で、捨てていたそ

うだ。ドイツで暮らしたこ

とがある藤井さんは、「日本

の白くてふわふわしたパン

がうまい」と言うドイツ人に

会つたことがない」と言う。

そのせいか、収容所内に

と、広島の似島収容所に移った1919(大正8)年1月、広島高等師範学校の学生チームと対戦。2試合とも完勝を収めた。大阪では市民との試合はなかったが、チームのキーパーがカール・ユーハイム氏だった。

どこかで聞いた名前では、广島で菓子店「フロインドリープ」を開いた。その後、神戸で菓子店「フロインドリープ」を製パン技師として迎えられた。そ

の後、神戸で菓子店「フロインドリープ」を製パン技師として迎えられた。その後、神戸で菓子店「フロインドリープ」を製パン技師として迎えられた。そ

の後、神戸で菓子店「フロインドリープ」を製パン技師として迎えられた。その後、神戸で菓子店「フロインドリープ」を製パン技師として迎えられた。そ

と、広島の似島収容所に移

て開かれたドイツ作品展示会で、日本で初めてバウム

クーベンを作つて販売し

た。今でいう物産展のよう

なものだろう。この年は似

島収容所にいたころにあた

る。ちなみに菓物産陳列館

は、今では原爆ドームとし

て知られている。

捕虜解放後、ユーハイム

氏はドイツに戻らず、横浜

で店を開くが、関東大震災

一帯を襲うが、芝居や音楽会が上演

され、中には芝居のために

菓子店を営んでいた。19

もう一人、同じく青島で

菓子店を経営していて捕虜

だ。



上：パンを受け取った捕虜
中：食堂にビールを運び入れる捕虜たち
下：サッカーチームもあった。中央の列の左端がユーハイムの創始者、カール・ユーハイム氏=写真是いずれも藤井寛さん提供



パン焼きがまを造る計画もあったという。大正歴史を語る会の松田邦雄さん（74）は「大阪のマルキパンに捕虜が作り方を教えに行ってるんです。それで大阪のパンはうまくなつた」と話す。

収容所には酒保があり、ビールやタバコも売られていた。松田さんが伝え聞いた話では、収容所のゴミ箱の中から香水の空き瓶を見付けたおばちゃんが、水を入れて着物に振りかけて喜んだとか、ワインの空き瓶を見て「ドイツ人は生き血を飲んでる」というデマが飛んだりしたという。

【松井宏員】

大阪俘虜収容所

大阪市大正区 184

放火？焼け跡は運動場に

大阪俘虜収容所の様子を撮影したエアハルト・アルバムには、雪合戦に興じたり、いかにもドイツ人らしく雪だるまにビール瓶を抱かせたりしている写真が収められている。クリスマスには小包が届いたし、所内には理髪所があって、有料だったが散髪もできた。

（大正5）年3月28日、大阪收容所で火事が起きた。敷地の隅にあった空き家のバラックから出火し、またたく間に燃え広がった。大阪毎新聞は「十三棟全焼

そんなさなかの1916年3月28日、大阪收容所で火事が起きた。次の大戦の中立国、アメリカ大使館の三等書記官が全收容所を視察する騒ぎとなっ

た。大阪俘虜収容所の見方では、「脱走者を出さず」の見出しで、捕虜たちも消防隊に加勢して鎮火に尽力した

知られざる大阪

わが町にも歴史あり



狭い敷地に積もる不満

捕虜らが改善要求……その後

ところが、大阪俘虜収容所を研究しているフット・ジャーナリストの藤井寛さん（62）は、これに疑義を唱える。書記官が大阪收容所を視察したのは同年3月11日。火事はその17日後に起き、焼け跡は要求通り、運動場になった。

日本に收容されたドイツの捕虜は約4700人。藤井さんの研究によれば、

バラツクから火13棟全焼

つまり、捕虜たちによる放火ではなかったか、というのだ。藤井さんは、エアハルト・アルバムを残したとしている。

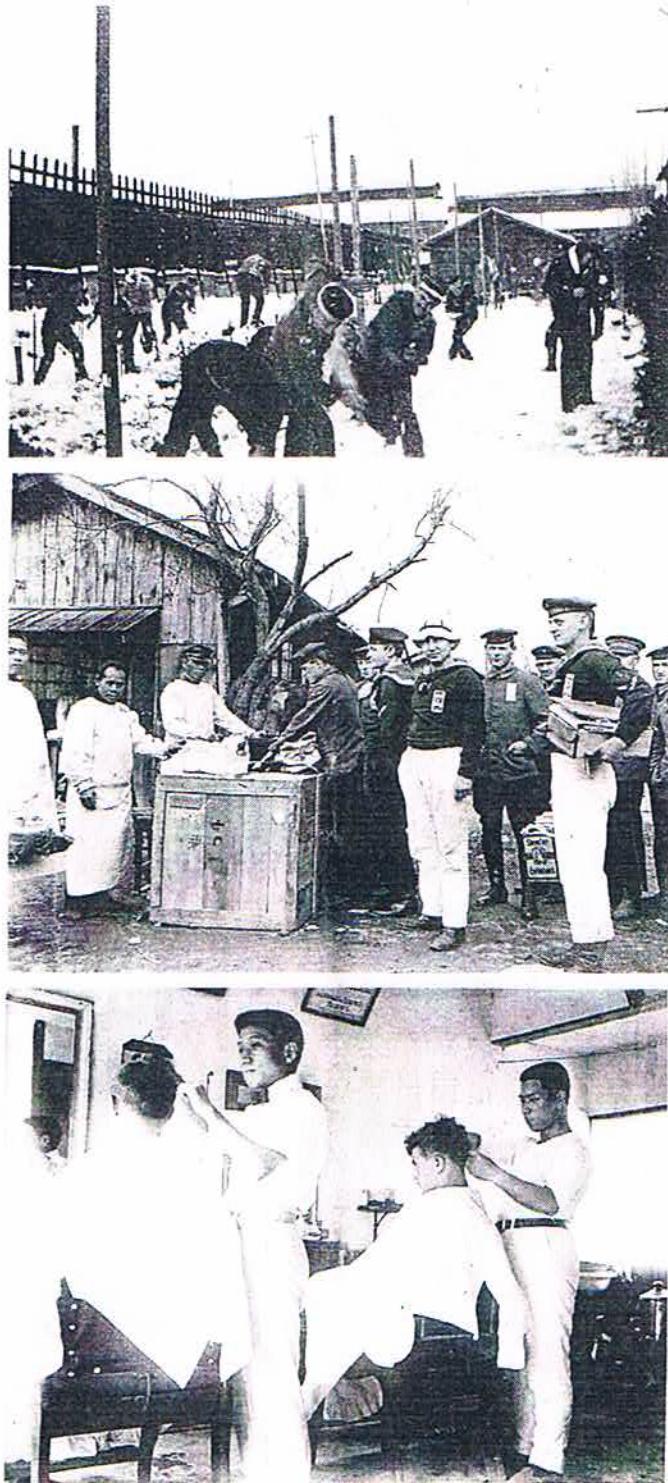
08年に発刊された「大阪俘虜収容所の研究」に寄せた、藤井さんの「エアハルト・アルバムと大阪俘虜収容所」によると――。将校が計画し、信頼する部下に命じてやった。人の良い日本兵は、約100人は日本に残ったという。「日本人まれた」という。日本人もいたし、中国人が、約100人は日本に残った。このドイツ人もいたし、中国人で店をやっていたり、勤めていた会社があつたり。いろいろなことがあってドイツに帰らなかつた人が多かったんです」と藤井さんは話す。

・似島收容所に移つてから、「あれは放火だった」という話が広まつたといふ。エアハルト・アルバムは、この火事のおかげで、捕虜たちは思う存分、サッカーを楽しむことができたわけだ。

◇

エアハルト氏は計画を知らされておらず、失火だと思っていたそだが、広島

④雪合戦に興じる捕虜たち ⑤クリスマスの小包を受領。「一四九」がエアハルト氏 ⑥散髪の光景。所内の理髪所に定期的に日本人が来て髪を切った
—写真はいずれも藤井寛さん提供



全収容所から約500人が北海道への移住を願い出した。「北海道は風景がドイツと似ているし住みやすく、捕虜は農家出身が多くたこともあった」と藤井さん。しかし、許可されず、当時オランダ領だったインドネシア・ジャカルタに移住し、警察官として雇われた。
「ところが第一次大戦で日本と同盟国のドイツ人だということで、連合軍の捕虜になった人もいたんですね」というから、気の毒な話だ。

【松井宏員】

2010年(平成22年)10月21日(木)

大阪俘虜收容所

大阪市大正区 185

わが町にも歴史あり

知られざる大阪

玉造(天王寺区)に旧真田山陸軍墓地がある。第二次大戦などで亡くなつた兵士らが葬られている。整然と並ぶ約5300の墓碑群の中に、カタカナの名前が刻まれた墓碑が2基ある。

尻の銃創のために入院していたが、突然亡くなつたといふ。

「… つたはず。収容所から出て
大阪市内を歩けるなんて、
幸せな連中だとうらやまし
がった」と述懐した。
クラフトは1917（大
正6）年3月1日、同じく
大阪衛戌病院で腸かいによ
で死亡した。大阪毎日新聞

等参加せり」とある。この年2月18日に、大阪収容所の捕虜は広島・似鳥収容所に移動し、大阪収容所は閉鎖された。クラフト所は閉鎖された。クラフトが亡くなった時、大阪にドイツ兵捕虜はいなかつたはずなのだ。疑問に思った藤

阪衛戌病院に留め置かれていたことがわかった。藤井さんは、この捕虜たちが葬儀に引つ張り出されたのではないか、と推測する。そうした死にさまを知つて、墓碑を眺めて思つ。ま

前にドイツヒールが置かれていたのを思い出した。2人のドイツ兵のことを忘れずにいる人が、参っている。寂寥とした墓地で、少し胸の奥があつたかくなつたものだ。

收容中病死

手厚い葬儀には

上官ら多数参列

つたく縁もゆかりもない遠い異国 の 地で、肉親にみとられるこ ともなく果てたド ッツ兵。病床で、その心中に去來したものはなんだっ たのか。

大阪俘虜収容所に送られ、
病死したドイツ兵だ。

「（ほ）ブルマン・ゴル」、もう一つは「兵卒」リードリッヒ・クラフトと刻まれている。

大阪収容所を研究していく

る「オト・ジャーナリスト」、藤井寛さん(62)の調べによると、ゴルは1915

（大正4）年9月7日 太
阪衛戌病院で死んだ。

ドイツ兵2人が眠る



旧真田山陸軍墓地



旧真田山陸軍墓地にたたずむドイツ兵捕虜の墓—大阪市天王寺区で

2人のドイツ兵の墓碑銘には、奇妙なところがある。「独逸」と、「軍曹」「兵卒」の間の文字が削り取られているようなのだ。この謎は1931(昭和6)年5月7日の大阪毎日新聞の記事で解けた。

「獨兵の墓前に咲いた人情の花」という見出しの記事は、5月5日、大阪にあつた陸軍第4師団長が真田山墓地を参拝した模様を報

削られた 「俘虜」の文字

領事と師団長「墓前に咲いた人情の花」

じている。この時、大きな花輪を持ったドイツ人に出会い、師団長がドイツ語で来意を尋ねた。このドイツ人は大阪駐在のドイツ領事で「私の国の人々がこちらにやっかいになっております。そのお礼かたがた礼拝に参りました」と答えた。これに深く感じ入った師団長ら一同は、ドイツ領事とともに捕虜の墓に参った。「師団長が外国人捕虜の墓前に礼拝したのはこれが最初のこと」だった。

この記事の最後に「師団では最近、墓標の『俘虜』の文字をその名誉のために削ることに決定している」とある。日独伊三国同盟が結ばれるのは、まだ先の1940(昭和15)年のこと。ドイツはまだ同盟国ではない。墓前でのドイツ領事との偶然の出会いが、「俘虜」の2文字を削らせたのだ。したら、このころの軍人は「情」を懷にしおぼせていたのだろう。【松井宏昌】

大阪俘虜収容所

大阪市大正区 186

市史区史にも記述なく

第一次大戦のドイツ兵捕虜を収容していた大阪俘虜収容所について、大阪市史にも大正区史にも記述はない。「負の歴史」は抹消されたのか、それとも完全に忘れ去られたのか――。そんな収容所の歴史を掘り起こしたのが、再三登場いただいているフォト・ジャーナリストの藤井寛さん(62)。横浜市在住だ。藤

井さんは大阪生まれ。小学校のころからドイツに関心を寄せていた。「アメリカ文化全盛のころだから、浮いてましたよ」と笑う。長じてから、第一次大戦のドイツ兵捕虜のことも調べた。

エアハルト・アルバムを手にしたのは、ドイツ・ハンブルクに住んでいた1981年のこと。1人住まい

わが町にも歴史あり

知られざる大阪



26年前 本紙で報道

ドイツ兵のアルバム 70年目の発見

埋もれた歴史

藤井寛さん掘り起こす

のお年寄りを藤井さんの奥さんが介護することになり、お年寄り宅と一緒に訪問した時に夕飯を持って来ていたお隣りさんが、エリザベート・エアハルトさん。大阪収容所にいた水兵の故テオドール・エアハルト氏の妻だった。顔見知りとなったエアハルト夫人が見せてくれたのが、亡夫が撮りためた大阪収容所のアルバムだった。

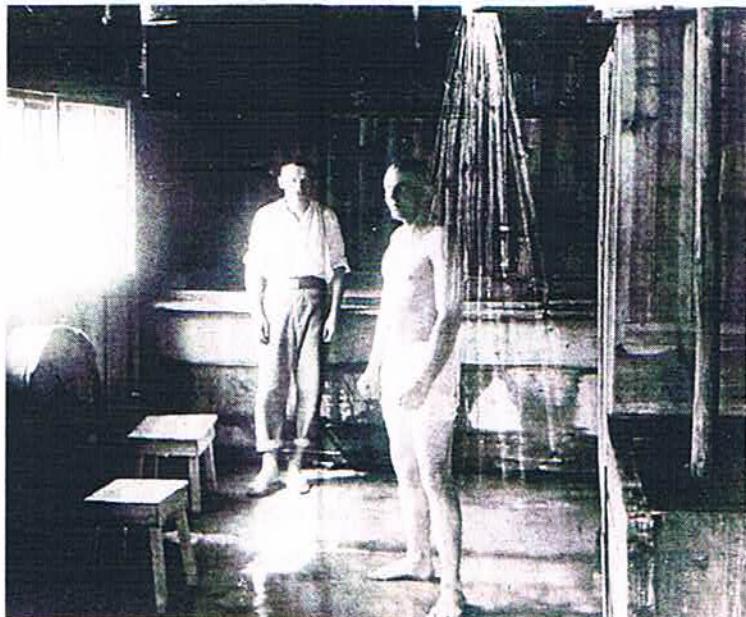
徳島の板東収容所跡には行ったことがあった藤井さんは、大阪収容所の存在は知っていたが、具体的なことを聞いていたが、具体的なことは何も知らなかつた。「大正区で、一つの潮流が起るのは、これよりずっとあと4年のことだ。『大正歴史を語る会』の松田邦雄さん(74)が図書館で毎日グラフを見付け、早速区長に掛け合って、「大阪俘虜収容所研究会」を発足させた。06年には平尾亥開公園に、収容所のパネルを設置。序幕式典には大阪・神戸イツ総領事代行も出席した。

藤井さんが一時帰国した時に、仕事の付き合いがあった毎日グラフに連絡して、この記事となつた。恐

家、西田當百は、反骨のジャーナリスト、宮武外骨とも交流があった元大阪毎日新聞社員。藤井さんと毎日新聞は浅からぬ縁があつた。

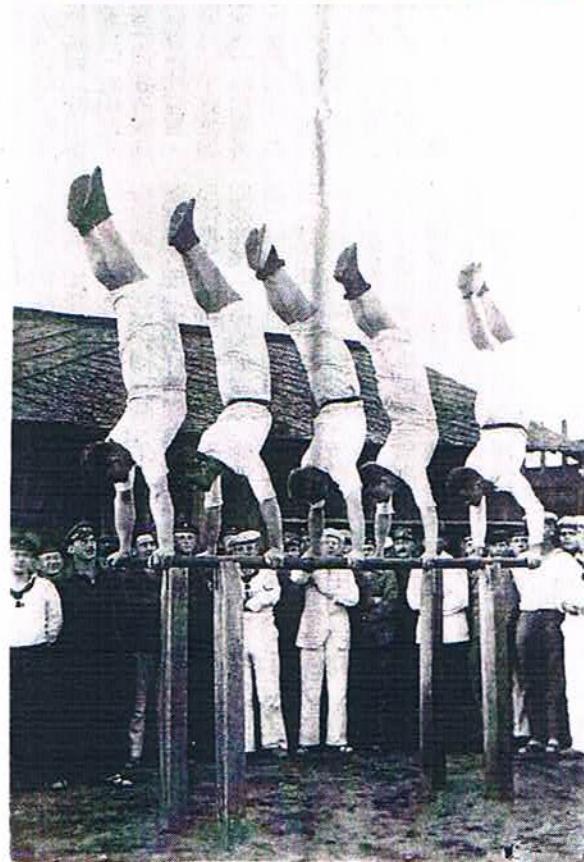
うく、大阪収容所が記事になつたのは、これが戦後初だった。このあと、毎日グラフにも特集記事が掲載された。

サウナでシャワー
を浴びる



体操? エアハルト・アルバムには「5人の最優秀者」と書き込まれている

*写真はいずれも藤井寛さん提供



この時、たまたま帰国していた藤井さんは、徳島県の鳴門市ドイツ館を訪ねたところ、「館長は式典のために大阪に行ってている」と聞いて大正区に駆け付けた。こうして、ようやく収容所を研究していた藤井さんと、大正区の関係者が会うことになった。

以来、ドイツ捕虜写真展の開催や大正区第九合唱団の公演など、大正区とドイツの縁が深まっている。もし藤井さんがエアハルト・アルバムと出合わなければ、恐らく大阪收容所は歴史の彼方に埋もれたままだっただろう。

【松井宏員】

十六地蔵

大阪市大正区 187

わが町にも歴史あり

知られざる大阪



校舎内に掲げられている16人の写真

学童疎開の悲劇伝える

大正区の南端にある南恩加島小学校は、大工場に挟まれた住宅地にある。夕暮れ近いころ、思い立って学校を訪ねた。突然の客を野田晋司教頭(54)は快く迎えてくれた。

03年1月29日に序幕されたこのモニュメントは、子どもたちが発案して作り上げた鎮魂の碑であり、遠い過去の悲劇を語り伝えている。

火事で16人が犠牲に

グラウンドの端に設けられた「十六地蔵モニュメント」には、児童たちが作った千羽鶴が揺れていた。「この辺は海に近く風が強いので、傷みが激しく、毎年作り替えます」と野田教頭が説明してくれる。

がつちりしたコンクリートの台座の上には、「平和の鐘」と名付けられた鐘がぶら下がる。「ずっと残すつもりで、コンクリートは鉄筋入りです」と野田教頭。

モニュメントを覆うあずまやには「先輩の思いをここに」と、子どもたちの手書きの文字が掲げられている。

南恩加島小 鎮魂の碑

7年前子どもたちの発案で

ぐという決意の証しなのだ。

たが子どもたちに語り継いだ。02年、当時の6年生が平和学習の中で、十六地蔵について「大阪にはなぜ何も残っていないのか」と疑問に思ったのをきっかけに、モニュメント作りを提案した。

話は、今から65年前の1945(昭和20)年にさかのぼる。南恩加島小学校の前身である南恩加島国民学校3年の男子29人は、徳島県真光町(現つるぎ町)に集団疎開していた。1月29日夜、宿所の真光寺本堂から出火し、逃げ遅れた16人が帰らぬ人となった。朝鮮

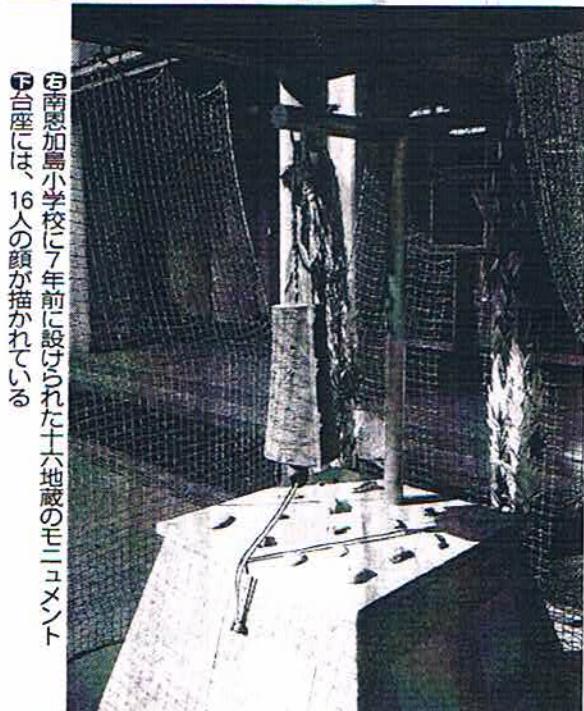
はめこまれている。台座の地域の協力を得て実現したモニュメント。その台座には、16人の顔と名前が手書きで描かれたレリーフが

平和守る決意の証し

半島や台湾から工場の工員として徴用された人たちの子どももいた。先生や寮母がたまたま留守にしていた間の出来事だった。

翌年、真光寺には16人の名前を刻んだ「十六地蔵」が建てられた。地元の元小学校の校長先生が88年に「十六地蔵物語」を著して、この悲劇が広く知られるようになった。

▽
南恩加島小学校でも先生



野田教頭が静かに言う。
「戦争のない所に行つたん
やけど、焼け死んでしもた。
戦争がなかつたらこんなこ
とにはならなかつた。そう
子どもたちに話すんです」

【松井宏員】

中には、これも子どもたち
が手書きで書いた16枚の卒
業証書が保管されている。
その卒業証書にはこう書
かれている。

あなたたちのほかにも戦
争のせいになり卒業でき
なかつた先輩たちがいます
そのすべての先輩たちの
思いを忘れず、これからも
平和を守つていくために努
力することを誓い、ここに
卒業証書をおわたしします
学校の北校舎1階ロビー
には、16人の写真が掲げら
れている。まだあとけない
子どもたちの写真を見てい
ると、親恋しい、家族恋し
い年ごろで、知らぬ土地で
果てた無念さ、はかなさが
胸に迫る。

続・十六地蔵

大阪市大正区 188

時計の針を1945（昭和20）年1月29日に戻してみよう。南恩加島国民学校（現・南恩加島小学校）3年男子児童29人は、集団疎開先の徳島県貞光町（現つるの町）の真光寺の本堂で眠りについていた。

その中に長尾章治さん（75）がいた。前年9月に宇高連絡船と列車を乗り継いで疎開。「着いた時、向こうの人たちが旗振って迎えてくれましてね」

知られざる大阪
わが町にも歴史あり

南恩加島国民学校

長尾章治さん

学童疎開での悲劇

真光寺に建つ十六地蔵＝徳島県つるぎ町で（南恩加島小学校提供）



真光寺を宿所に、昼は貞光小学校で、地元の子どもたちと一緒に授業を受けていた。

「ものすごく、あんぱいしてくれた。お正月は、も入ると、誰かが必ず泣き出しだした。「人が泣き出したう、みんな泣いてね。夜は

午後9時ごろ。「パッと目が覚めた時は、自分の布団が燃えてたし、火の海ですわ」。布団は本堂の障子に沿って敷いていた。その布団が障子に絡まって、なかなか開かなかったのを覚えている。障子の外には雨戸。「どないして破ったか」。

泣き叫ぶ声さえ消し飛ぶほど、一刻一秒を争う事態だった。気が付くと、パンツ一枚で外にいた。

布団の隣には、台湾出身の仲良しが寝ていた。「いまだに、なんど起こさんかったんだ」と。長尾さんは何度も繰り返した。恐らく、

記憶にない」
阿鼻叫喚だったろうが、泣き叫ぶ声さえ消し飛ぶほど、一刻一秒を争う事態だった。気が付くと、パンツ一枚で外にいた。

布団の隣には、台湾出身の仲良しが寝ていた。「いまだに、なんど起こさんかったんだ」と。長尾さんは何度も繰り返した。恐らく、

亡くなった16人の名前
を記した紙を手にする
長尾章治さん



助かつた自分の務め

命日には現地へ 自宅仏壇に16人の名供え供養

誰かに思いを致す余裕は、年端もいかない子どもにはなかつただろう。

幸い、父親の知人が近くにいて、着物を差し入れてくれた。翌日、保護者会の役をしていた父親がやつて來た。「お寺には行つたらあかんで」と言われて。何人亡くなつたかも言うてくれなかつた。そのまま大正に、父親に連れられて帰りました」

◇
この火事で亡くなつた仲の良かつた友人宅はしばしば訪ねていた。ある時、友人のお姉さんに「弟も生きてたらこれくらいになつてんのに」と言われたのがつらくて、足が向かなくなつた。

毎年、命日の1月29日には、真光寺にお参りに行く。供養が終わつたあと、本堂には近所の世話係の人たちが残つている。そこに加わつて、当時の記憶を話すのがならくなつてゐる。
13人が助かつてゐるが、消息は知らない。請われて南恩加島小学校で体験を話したこともある。「これも一つの戦争の犠牲者。風化せんように、取材や話す機会があつたらね」。あの日の出来事をパソコンに打ち込んで保存してゐる。
果物店を閉めた10年前から、亡くなつた16人の名前を書いた紙片を仏壇に置いて、供養している。それが、あの火事で助かつた自分の務めだと、思い定めているようだつた。【松井宏員】

続・十六地蔵

大阪市大正区 189

再び南恩加島小学校を訪ねた。大橋直人校長(59)が迎えてくれた。

第二次大戦中、集団疎開先の徳島県貞光町(現つるぎ町)で火事に遭って亡くなった南恩加島国民学校の16人の子どもたちを悼む「十六地蔵モニメント」ができるのは03年1月。以来、毎年、南恩加島小学校と徳島の貞光小学校の子どもたちが交流しているという。

5月には、貞光小の6年生が関西への修学旅行の折に南恩加島小を訪問。今年の集会で大橋校長は「16人

わが町にも歴史あり

知られざる大阪



■南恩加島小 ■徳島・貞光小

修学旅行で相互訪問

こちらからは6月に、3年生86人が四国への修学旅行の際に徳島に寄り、真光寺の十六地蔵にお参りしました。「向こうの歓迎がすごいです。バスが着く駐車場に横断幕を持つて出迎えてくれて、お寺までの道を歩いていくと、地元の方々が家を出てきて、小旗を振ってくれるんです」。大橋校長は感激の面持ちだ。

の死を心から悼みましょう」「戦争は二度とやつてはいけないこと」と話した。その後、両校の6年生同士がゲームなどに興じた。

(南恩加島小提供)

平和願い交流7年に



一方の貞光小の杉本一男教頭(54)は地域の人には、あの火事の記憶が残っているんです。当時を知る人が学校に来られたり。交流は、大阪の人と会えるし、命の尊さを学ぶいい機会です」と話す。

修学旅行の前には、南恩加島小の6年生が平和メッセージを貞光小に送る。「平和だね このままで」といってほしい」「戦争で死んだ人たちかわいそう」といったメッセージが、貞光小の掲示板に掲示されている。

16人が亡くなった命日の1月29日には、両校で同時に記念集会を開いている。この集会に向けて、南恩加島小ではこれから人権学習が本格化していく。低学年は十六地蔵のアニメを見たり、高学年は大阪大空襲を学んだりと、戦争について考える。

南恩加島小の子どもたちを横断幕を手に出迎える徳島県つるぎ町の人たち(今6月)(南恩加島小提供)

①真光寺の十六地蔵にお参りする南恩加島小の子どもたち—今年6月
②十六地蔵モニュメントに祈る貞光小の子どもたち—今年5月
(いずれも南恩加島小提供)



大阪と徳島で、十六地蔵の悲劇が語り継がれてい る。両校の取り組みは心強 い限りだ。子どもたちの交 流が、今後も途切れること なく続くことを願いたい。

【松井宏員】

また、全校児童が千羽鶴を折り、モニュメントに飾るほか、貞光小にも送っている。大橋校長は「子どもたち一人一人が、思いを込めて折るんです」という。集会では、全校児童がモニュメントに手を合わせて、鐘をつく。貞光小でも十六地蔵の本の読み聞かせなどをして、当日は真光寺に参拝する。

ただ、来年の1月29日は土曜なので、学校はお休み。貞光小は土曜でも集会を開くが、大橋校長は「こちらは金曜に。同じ日にできないのが心苦しいんですが……」と申し訳なさそうだ。

前回でお話を聞いた、火事の経験者である長尾章治さん(75)は「学校が一生懸命取り組んでくれているのは、うれしいですね」と言 う。

わが町にも歴史あり

知られぬる大阪

大阪市大正五

